

第 1 節 研究 1 幼稚園における ICT 活用

岩崎智史

要約

本節では、アンケート調査結果に基づき、幼児教育現場における情報教育の現状について分析を行った。アンケートの回答結果から、幼児期におけるコンピュータ教育はまだまだ発展途上にあるといえる。しかしながら、率先してコンピュータ教育に力を入れている園もあり、その有効な利用方法についても今後検討する必要がある。

キーワード

ICT、幼稚園

1. 目的

グローバル化された情報社会である今日において、パソコンは生活必需品であるといえる。また、社会においてもパソコン操作に習得していることを求められることも多い。文部科学省も、この時代背景を踏まえ、2003 年より高等学校教育において『情報』を必修科目と定めている。また、21 年度施行予定の新しい学習指導要領において、『平成 20 年度小学校新教育課程説明会中央説明会（全体会）資料小学校学習指導要領改訂 一 小学校学習指導要領改訂、移行措置等について』にて、情報モラル、情報の活用などの情報教育の充実が盛り込まれており、情報教育の低年齢化が進んでいると言える。しかしながら、諸外国においては（日本でもかなり使われており、教科書（学研）も作られている。）すでに小学校の授業などでコンピュータは利用されているのが現状である。そこで、情報教育の低年齢化を踏まえ、幼児教育現場における情報教育の現状を知るために、アンケート調査を行うこととした。

また、家庭用ゲーム機もオンラインゲーム（MMORPG：多人数同時参加型オンライン RPG、やオンライン対戦）、ファームウェアや本体内蔵ソフトウェアのアップデート、コンテンツの DL 販売といった、インターネットを介した使用がなされている。これは携帯ゲーム機も同様であり、置き型のゲーム機よりもその携帯の利便性、拡張性から、近年では通信機能を利用したコミュニケーション・ツールやブラウザ、学習補助教材としても利用されている。このように携帯ゲーム機は従来のゲーム機としての使用以外にも応用的な利用がされている。そのため、携帯ゲーム機はゲーム機というよりも、携帯情報端末や携帯電話といったものと同様に情報機器、あるいはコミュニケーション・ツールの側面をもっていると言える。そこで、携帯ゲーム機の持つ情報機器としての応用的側面に着目し、幼児教育の場面で活用できないかを同様にアンケート調査を行った。

2. 方法

(1) 調査対象

全日本私立幼稚園連盟中国支部と日本幼年教育会に作成したアンケートを送付し、郵送にて回収を行った。有効アンケート回収数は 63 名であった。

(2) 質問項目

コンピュータの設置状況に関する項目 6 項目。コンピュータの利用状況に関する項目 6 項目。教育・保育支援のコンピュータ教材に関する項目 3 項目。テレビ会議システムに関する項目 2 項目。携帯ゲーム機に関する項目 2 項目。回答者の属性に関する項目 2 項目。

3. 結果

(1) 回答者の属性に関して

Table1 より今回のアンケートの回答は主に中国地方のものであることがわかる。また、Table2. より回答者の年代は、主に 50 代の幼稚園教諭が多いことがわかる。

Table1 回答地域に関して

近畿地方	四国	中国					九州		記入漏れ
兵庫	香川	広島	山口	岡山	鳥取	島根	鹿児島	長崎	
1	1	9	11	10	11	4	1	2	13

Table2 回答者の年代に関して

年代	20代	30代	40代	50代	60代	記入漏れ	全体
度数	2	7	10	23	17	4	63

(2) コンピュータの利用状況に関して

園におけるコンピュータの利用状況を知るために、コンピュータの保有状況ならびにインターネット接続の有無、利用方法、PC の設置場所、導入期間について調べた。

①コンピュータの保有状況

コンピュータの保有台数は Table2 および Figure1 が示す通りである。このことから園の規模に関わらず、一園あたり 5 台程度保有されていることが分かった。これは教員の仕事柄、常に PC 上で作業する必用がないため、必要数に応じて保有しているためと考えられる。

Table3 園における PC 保有台数

保有台数	度数	%
0台	1	1.6
1台	7	11.1
2台	11	17.5
3台	13	20.6
4台	16	25.4
5台	10	15.9
6台	1	1.6
9台	1	1.6
12台	1	1.6
13台	1	1.6
15台	1	1.6
合計	63	100.0

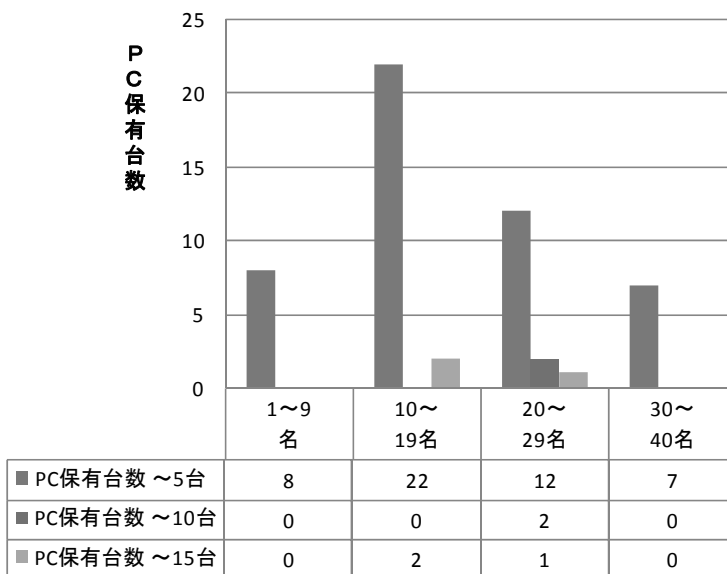


Figure1 教職員数と園における PC 保有台数

②インターネットの接続状況

インターネットの接続の有無に関しては、Table3 の通りである。なお、各園の PC 保有台数とインターネット接続の有無の割合を求めたところ 68.6%であった。このことから、PC を保有している園では、インターネットに接続されていることが分かる。

Table4 インターネット接続台数

	度数	%
0台	1	1.6
1台	20	31.7
2台	19	30.2
3台	10	15.9
4台	9	14.3
5台	2	3.2
合計	61	96.8
記入漏れ	2	3.2
全体合計	63	100.0

③コンピュータの利用方法

次に、園におけるコンピュータの利用方法について、保育のため、子どもの管理、事務処理、その他の4つに分類し、回答を求めた。その結果、保育のためのコンピュータ利用は回答全体の半数であった。また、子どもの管理においても全体の半数程度であった (Table5, Figure2 参照)。

Table5 コンピュータの利用方法について

N=63名	利用していない	利用している
保育のため	31	30
子どもの管理	20	41
事務処理	0	61
その他	50	11

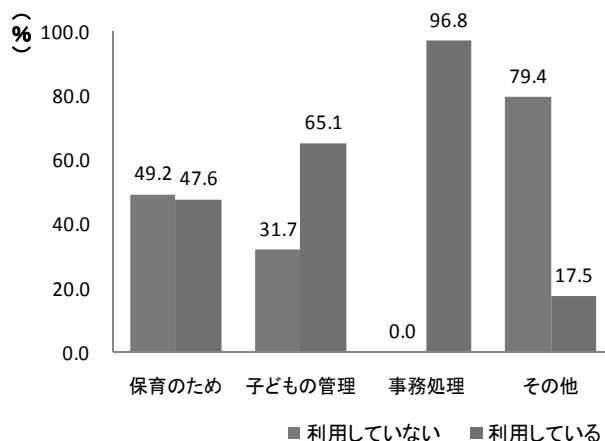


Figure2 コンピュータの利用方法について

④コンピュータの設置場所

次に、コンピュータの設置場所について、回答を求めた。コンピュータは主に、職員室 (79.4%) と事務室 (41.3%)、園長室 (所長室) (31.7%) に設置されていることがわかる。逆に、保育室や図書室 (1.6%) に設置している園が少ないことがわかる (Table6 参照)。

これは、主に事務処理や子どもの管理にパソコンを利用しているため、必然的に教職員の部屋に設置されていることが考えられる。

Table6 コンピュータの設置場所について

設置場所	設置していない (%)	設置している (%)
専用の部屋	88.9	7.9
職員室	17.5	79.4
保育室	95.2	1.6
事務室	55.6	41.3
園長室(所長室)	65.1	31.7
図書室	95.2	1.6
その他	95.2	1.6

⑤コンピュータの導入期間

次にコンピュータの導入期間について、回答を求めたところ、5年～10年未満という回答が最も多く（45%）、次いで10年以上という回答が多かった（37%）。このため、コンピュータを使用している園の多くは、10年程前からコンピュータを利用しているといえる。

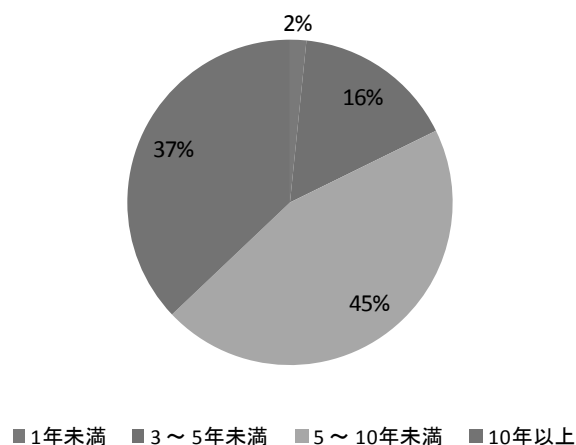


Figure4 コンピュータの導入期間

(3) コンピュータの教育・保育利用に関して

コンピュータの教育・保育利用に関して、コンピュータを教育・保育の手段としての利用しているかどうか回答を求めたところ、利用していると答えたものは19園（30.2%）であった。

次に、3歳児未満、3-4歳児、4-5歳児、5-6歳児でどの程度、コンピュータを使用しているか回答を求めた。その結果、Figure5 のようであった。また、園児が自由に使えるコンピュータがあると答えたものは5園（7.9%）であった。

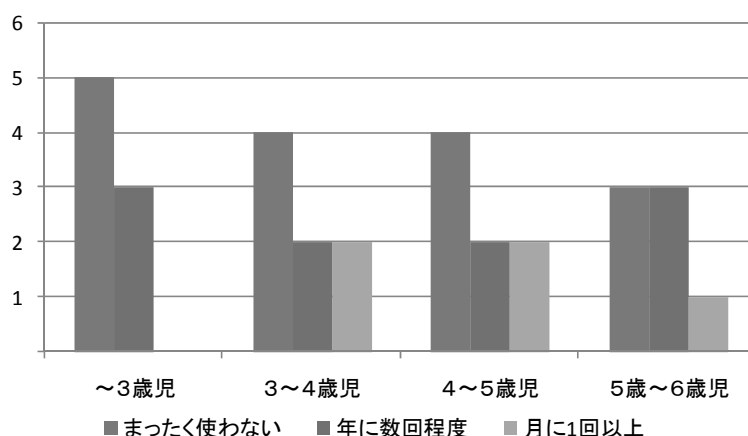


Figure5 コンピュータ教育・保育手段の利用頻度

また、どのようなソフトを利用したことがあるか回答を求めた、結果 Table7 のようであった。その結果、行事 7 (11.1%)、音楽 6 (9.5%)、数字の学習 5 (7.9%) といったものが上位であった。しかしながら、いずれにしても利用経験は低いといえる。

Table7 利用経験のあるソフトの種類

	利用経験なし	利用経験あり	利用経験なし (%)	利用経験あり (%)
文字の学習	24	3	38.1	4.8
数字の学習	22	5	34.9	7.9
言葉の学習	23	4	36.5	6.3
外国語教育	25	2	39.7	3.2
音楽	21	6	33.3	9.5
美術・造詣	23	4	36.5	6.3
体育	26	1	41.3	1.6
リズムダンス	26	1	41.3	1.6
行事	20	7	31.7	11.1
生活マナー	26	1	41.3	1.6
安全教育	24	3	38.1	4.8
防災教育	24	3	38.1	4.8
交通教育	25	2	39.7	3.2
買い物学習	26	1	41.3	1.6
絵本・紙芝居	24	3	38.1	4.8
その他	26	1	41.3	1.6

(4) TV 会議システム・携帯ゲーム機の利用に関して

TV 会議システムの有無に関して回答を求めた。その結果、有ると答えた回答は 1 名 (園?) のみであった (Table8 参照)。また、利用方法について短所と長所を自由に回答してもらったと

ころ『教員研修に。長所：いつでも遠方の先生から研修が受けられる。短所：設定等一部の教員しかできない』という回答であった。また、持ってないと答えたものについても、今後の導入予定を自由に回答してもらった。その結果、『職員数が多くなく、顔を見て直接話す終礼を週 3 回行っているため』、『他園とのやりとりにスカイプを使って行う時がある』、『現在のところ必要性がないため』という回答が得られた。このことから、あまり TV 会議システムの必要性を感じていないと考えられる。

Table8 TV 会議システムの有無に関して

TV会議システムの有無	度数	%
有る	1	1.6
無い	52	82.5
合計	53	84.1
記入漏れ	10	15.9

次に教育支援の補助教材として携帯ゲーム機を利用したいかどうかに関して回答を求めた。その結果、利用したいという回答は得られず、利用したくないという回答が主であった (Table9 参照)。また、その回答理由を自由に回答してもらった。その結果、Table10 に示したような意見が寄せられた。

Table9 携帯ゲーム機の利用に関して

携帯ゲーム機の利用に関して	度数	%
絶対に利用したくない	23	36.5
あまり利用したくない	26	41.3
合計	49	77.8

Table10 携帯ゲーム機の利用に関する理由

幼稚園の時代にメディアに触れることはどうなのかという疑問をもちます。パソコンの時間は、子どもたちにとってとても楽しい時間なのですが今の時点で、どうすすめていけばいいのか悩みます。将来は必ずふれるであろうことをする意味があるのかどうか
ゲーム機能の方が多いと理解しているから。バーチャルな体験よりも生の経験をして欲しい
使用目的がはっきりした場合考えたい。現在のところゲーム中心になっているため
家庭の方で利用している人が多いと思いますので園の方では利用を考えていない
1人1台の利用は大変そう。画面が小さいので教師も画面上の把握がしにくい
ゲーム機に興味がない
前頭葉を活性化しないものは排除したいから
幼児期の直接体験を重要視したいから
よくわからない分野なので、まず自分が体験してから考えていきたい
幼児期には必要とは思わない
不必要むしろ弊害がある
前頭前野の発達に良い影響を与えないと思う
自然の中などでの実体験を多くさせたい
子どもの脳の発達に悪影響を及ぼすと考えているから
幼児期は戸外で遊ぶことをモットーとしています。やがて青年期に入ると、イヤでも自ら遊びだすと思います
外遊びなどが足りていないと考えているので

Table10 より幼児期のゲーム機利用が発達段階に影響しないかということに危惧していることがわかる。また、幼児期では実体験を重視したいという教育方針がうかがわれる。このことから、幼児期における携帯ゲーム機の教育現場での利用は、難しいといえる。今後は、家庭における補助的使用についても検討する必要があると考えられる。

4. まとめ

アンケートの回答結果から、幼児期におけるコンピュータ教育はまだまだ発展途上にあるといえる。しかしながら、率先してコンピュータ教育に力を入れている園もあり、その有効な利用方法についても調べる必要性を感じた。なお、今回のアンケート回答は中国地方が多いため、地域の特長の影響がないか検討する必要があるといえる。